



地域新時代を拓くプロフェッショナルになる

香川大学大学院 地域マネジメント研究科 2026年度要覧

香川大学大学院 地域マネジメント研究科

事務室 香川大学統合事務センター教務課(地域マネジメント研究科担当)

〒760-8523 香川県高松市幸町2-1

tel.087-832-1826

URL <http://www.gsm.kagawa-u.ac.jp/>

沿革

- 大正12年(1923年) 官立高松高等商業学校を現校地に創立
- 昭和19年(1944年) 高松高等商業学校を高松経済専門学校に改称
- 昭和24年(1949年) 香川大学経済学部発足
- 昭和56年(1981年) 香川大学法学部発足
- 平成15年(2003年) 香川大学大学院地域マネジメント研究科設立認可
- 平成16年(2004年) 連合法務研究科とともに大学院地域マネジメント研究科創設
- 平成21年(2009年) 大学基準協会経営系専門職大学院認証評価の適合認定
- 平成26年(2014年) 創立10周年記念行事開催
- 平成26年(2014年) 大学基準協会経営系専門職大学院認証評価の適合認定
- 平成31年(2019年) 大学基準協会経営系専門職大学院認証評価の適合認定
- 令和6年(2024年) 大学基準協会経営系専門職大学院認証評価の適合認定

2026年4月1日発行

Business School



香川大学大学院地域マネジメント研究科は、
わが国初の地域活性化に貢献する教育研究を目的とした
経営系専門職大学院として開校し、23年目を迎えました。

“ ビジネスと地域公共領域の融合で地域のリーダーを養成します。 ”



ご挨拶

香川大学大学院
地域マネジメント研究科長
中村 正伸

日本の経済と社会を建て直すため、地域の役割が注目され、官民あげて地方創生の取組みが行われてきています。国立大学法人も各地域において、中心的なプレーヤーのひとつとしての役割を果たすことを求められる時代になっています。香川大学も、「持続可能な地方分散型社会の実現に貢献する人材の育成と研究の推進」をビジョンに掲げ、DRI(デザイン・レジリエンス・インフォマティクス)教育に注力し、大学全体として地域貢献を進めています。

そのような状況下で、大学院地域マネジメント研究科は、中国四国地方で唯一のMBAが取得できる経営系専門職大学院として発足し、国立大学法人としては全国で4番目に開校したビジネススクールです。大学基準協会による経営系専門職大学院の認証を受け、要求される研究教育水準を満たしているという評価結果をいただき続けてきました。設立された当初としては珍しく、地域活性化に貢献する教育・研究に、他大学に先んじて焦点をあてた初めてのビジネススクールであり、歴史を刻み続けた結果、そのことが他に類を見ない特徴となり、この春には無事23期生を迎えています。本研究科には、早くから地域活性化のための教育研究に取り組み、切り開いてきたパイオニアとしての自負があり、学生と教員が共に培ってきた経験の蓄積は大きな財産となっています。修了生は600名を数えるまでになり、それぞれが現場で目覚ましい活躍をされています。今後さらに、地域活性化への取組みを加速させ、その成果をより大きく、発展させなくてはなりません。具体的には、香川大学全体として、地域におけるアントレプレナーシップの促進や、世代を超えてのリカレント教育への注力など、過去22年間取り組んで来た経験とネットワークを最大限に活かし、さらに地域貢献に注力して参ります。

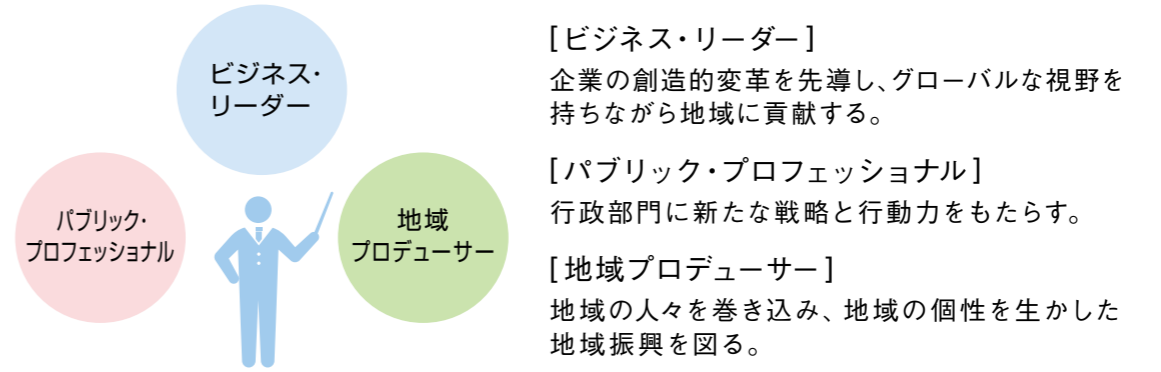
学生の多くは昼間に仕事をしながら熱心に学ぶ社会人です。最近では女性の割合が増加傾向にあるとともに、世代、業種という点でも、多様性がますます広がっています。本研究科は、地域活性化を主体的にリードする人材を育成するというミッションの下、民間企業のような営利組織だけでなく、自治体や行政機関、NPO法人や、学校、病院といった非営利組織の方々、経営者や幹部職員、一般職員、学校長といった、さまざまなバックグラウンドを持つ学生が学ぶ場となっており、貴重なネットワーク形成の場ともなっています。現役学生が修了生も交え、組織の垣根を越え、組織の都合のみに捉われることなく、既存組織や事業の運営のみならず、起業や新規事業、そして地域について語り合い、深く交流、切磋琢磨し合い、充実した2年間の学生生活を送ることができる場となっています。協力し合える仲間が見つかり、学生同士による地域活性化のプロジェクトが創発される土壌が育まれています。

2年間の正規プログラム修了により、MBA(Master of Business Administration) と称する経営修士(専門職)の学位が授与されます。修了生は地域のリーダーとして、必ずしも地域の枠に捉われることなく、活躍することが期待されます。あるいは、大学に新たに誕生した創発科学研究科の博士後期課程への進学もありません。香川大学大学院地域マネジメント研究科で学び、人生の新たなページを開いて欲しいと思います。

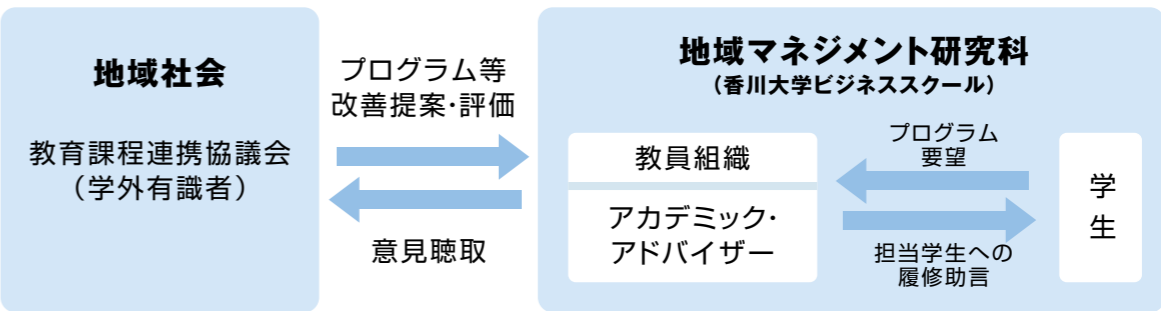
地域マネジメント研究科の概要

学位名称	経営修士(専門職) MBA (Master of Business Administration)
学生定員	入学定員 30名 / 収容定員 60名
授業時間	昼夜開講 平日(月曜日～金曜日)の夜間の授業時間帯 第1時限/18:20～19:50 第2時限/20:00～21:30 また土曜日にも授業を行うとともに、夏季などの休業期間に集中講座を実施し、社会人に都合のよい時間割に配慮します。さらに、自習サポートシステムを整備し、勉強の便宜を図ります。
標準修業年限	2年
修了要件	40単位以上の取得

養成する人材像



学生と地域に開かれた組織



教育課程連携協議会では、地域社会の期待や要請を研究科内のカリキュラムに反映させるため、毎年、地元を代表する経済界・行政の有識者と本研究科教員との意見交換会を開いています。

アドミッション・ポリシー（学生受入方針）

求める学生像（入学者に求める学力・能力・資質等）

大学院入学までに、以下のような学力・能力・資質等を備えていることを求めています。

- 1. 知識・技能・理解力**
4年制大学卒業相当の者が身につけているべき一般的な能力（特定の分野の知識や技能は求めない）
- 2. 思考力・判断力・表現力**
地域活性化に関する諸課題を論理的に考え、他者に説明できる表現力・コミュニケーション能力
- 3. 応用力**
地域活性化に関する諸課題から、自身に関心を寄せるものに焦点を当て、課題が生じる原因やそれを解決する社会的意義等を整理する力
- 4. 探求心・意欲・態度**
地域活性化に関する諸課題に主体的に取り組み、多様な人々と協働して学び、地域に貢献しようとする高い志・意欲・態度
- 5. 倫理観・社会的責任**
地域活性化に貢献することを志す者が持つべき倫理観とその社会的責任を理解できる能力
- 6. グローバルマインド**
地域活性化に関する諸課題を、単に当該地域や国内で閉じた問題として捉えず、国際社会の中での問題として捉えようとする志向性

入学者選抜の基本方針

一般選抜

一般選抜は、社会人経験の乏しい4年制大学卒業相当の学位を有する者について、「ビジネス・リーダー」「パブリック・プロフェッショナル」「地域プロデューサー」を目指す上で必要な学力・能力・資質等を見ることを目的としています。小論文では、4年制大学卒業相当の者が身につけているべき一般的な能力、理解力、思考力（着眼点及び論理性）、表現力を評価します。面接では提出書類を参考にしながら、思考力（着眼点及び論理性）、理解力、応用力、コミュニケーション能力、地域活性化に貢献することを志す意欲や倫理観、グローバルマインドを評価します。

社会人選抜

社会人選抜は、十分な社会人経験及び4年制大学卒業相当の学位を有する者について、「ビジネス・リーダー」「パブリック・プロフェッショナル」「地域プロデューサー」を目指す上で必要な能力・資質等を見ることを目的としています。面接では提出書類を参考にしながら、思考力（着眼点及び論理性）、理解力、応用力、コミュニケーション能力、地域活性化に貢献することを志す意欲や倫理観、グローバルマインド、及び社会的実績を評価します。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

香川大学大学院地域マネジメント研究科では、その教育理念に基づき、地域活性化に貢献する上で必要な基礎及び専門知識を理論と実践のバランスを図りながら体系的に修得し、地域活性化に貢献できるプロジェクトや調査を企画・実行・発表する「総合力」を身につけ、高い倫理観と社会的責任のもと、国内外におけるマネジメントや地域政策の現場で活躍できる幅広い能力を備えた人材を育成します。具体的には、企業におけるビジネス・リーダー、行政におけるパブリック・プロフェッショナル、地域資源を活かして活性化を図る地域プロデューサーなど、地域新時代を拓くプロフェッショナルを養成することを目指します。本研究科を修了し、本学が送り出す経営修士（専門職）が身につけるべき能力・態度の到達基準は次のとおりです。

- 1. 専門知識・理解**
定性的定量的数理的的分析能力: 社会一般の問題を定性的・定量的・数理的に分析し解決することができる。
基礎力: マネジメントで必要とされる基礎的知識及びその獲得能力を有している。
地域問題発見能力: 四国地域を客観的に把握し当該地域が抱える具体的問題を見つけ出す能力を有している。
- 2. 研究能力・応用力**
応用力: 地域活性化に貢献する上で必要な専門知識を理論と実践のバランスを図りながら体系的に修得し、その知識を個別分野及び個別地域における様々な課題に投影する際に必要となる応用的能力を備えている。
実践的課題解決能力(総合力): 地域活性化に貢献できるプロジェクトや調査を自ら企画・実行・発表するための実践的な課題解決能力(総合力)を備えている。
- 3. 倫理観・社会的責任**
地域活性化に貢献する専門的人材として、高い倫理観と地域の企業や行政が果たすべき社会的責任に関する自覚と理解を備えた上で、課題解決に必要な戦略や政策を立案・実行することができる。
- 4. グローバルマインド**
地域資源を活用し発展させ、地域全体の活力を向上させるため、グローバルな視野に基づいた政策及び戦略を立案し提案できる能力を備えている。

香川大学大学院地域マネジメント研究科では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を育成するために、分析基礎科目（4単位以上）、基礎科目（「研究倫理（1単位必修）」を含む10単位以上）、地域基礎科目（4単位以上）、応用科目（自由選択）、プロジェクト科目（8単位必修）から構成される教育課程を編成・実施します。修了要件は上記科目40単位以上の修得及びプロジェクト研究の審査に合格することです。なお、入学時から修了時まで、学生一人ひとりの研究・教育上の相談相手として複数の指導教員（1年次はアカデミック・アドバイザー、2年次はプロジェクト科目担当教員（アカデミック・アドバイザーを兼任））が割り当てられ、指導教員等を中心として指導・支援を行うことで、学生の多様な問題意識や目的に対応した履修・研究計画を適切にカスタマイズできる体制を構築しています。ディプロマ・ポリシーの各項目の達成は、以下に示した大学院教養教育科目を含む体系的教育をもって実現します。

- 1. 専門知識・理解**
「社会一般の問題を定性的・定量的・数理的に分析し解決する能力（定性的・定量的・数理的的分析能力）」「マネジメントで必要とされる基礎的知識及びその獲得能力（基礎力）」「四国地域を客観的に把握し当該地域が抱える具体的問題を見つけ出す能力（地域問題発見能力）」は、それぞれ「分析基礎科目」「基礎科目」「地域基礎科目」により修得することができます。
- 2. 研究能力・応用力**
第1年次から第2年次の間、応用科目を通じて、地域活性化に貢献する上で必要な専門知識を理論と実践のバランスを図りながら体系的に修得し、その知識を個別分野及び個別地域における様々な課題に投影する際に必要となる応用的能力（応用力）を身につけます。また、第2年次に配置されたプロジェクト科目を通じて、地域活性化に貢献できるプロジェクトや調査を自ら企画・実行・発表するための実践的な課題解決能力（総合力）を修得します。
- 3. 倫理観・社会的責任**
本研究科の授業科目には、いずれも社会的要請に基づき、企業・行政が持つべき倫理観と社会的責任に関する内容が基本前提として取り入れられています。基礎科目の「研究倫理」に加え、その他の授業を幅広く履修することで、高い倫理観及び社会的責任に関する自覚と理解を踏まえつつ、地域活性化に貢献するための課題解決に必要な戦略や政策を立案・実行する能力を身につけることができます。
- 4. グローバルマインド**
第1年次から第2年次の間、主に応用科目を通じて、地域資源を活用し発展させ、地域全体の活力を向上させるために必要とされるグローバルな視野に基づいた政策及び戦略を立案し提案できる能力を身につけることができます。

以上の学習成果の評価は、シラバスに記載している方法によって、各授業科目の到達目標の達成度で評価します。プロジェクト科目は、教員全員による評価と指導教員による評価を合わせ総合的かつ厳格な審査を実施し、プロジェクト研究の最終的な可否判定を行います。

取得できる学位

経営修士（専門職） MBA (Master of Business Administration)

特色となる5つのポイント

A 多彩な専任教員・講師

専任教員は、経営領域と、地域科学分野の優れた研究業績を有する研究者教員と、中央省庁・自治体や企業での豊富な経験を有する実務家教員からなります。非常勤講師には、県内外から産官学各界を代表する方々に就任していただいています。行政関係では、四国財務局長などの省庁の局長、香川県知事などの自治体トップ、経済関係では地域企業の経営者、全国企業の支店長など多彩な講師を迎え入れ、さらに地域とタイアップした講義などカリキュラムの充実に努めています。

B 理論と実務の双方向教育

多彩な教員による実務的な科目群、理論的な科目群、そして集大成を図るプロジェクト研究などのカリキュラムについて、理論と実務の双方から教育に取り組めます。またビジネススクールの特性を活かし、ケース教材開発を積極的に推進し、それを活用した教育を行います。

C きめ細やかな少人数教育

専任教員1人あたりの学生数は学年あたり約3人です。学生1人ひとりの問題意識に応じたきめ細やかな指導が可能です。また、専任教員によるアカデミック・アドバイザー制度を設け、学生1人ひとりの学習上の相談に応えます。

D 社会人に便利な教育環境

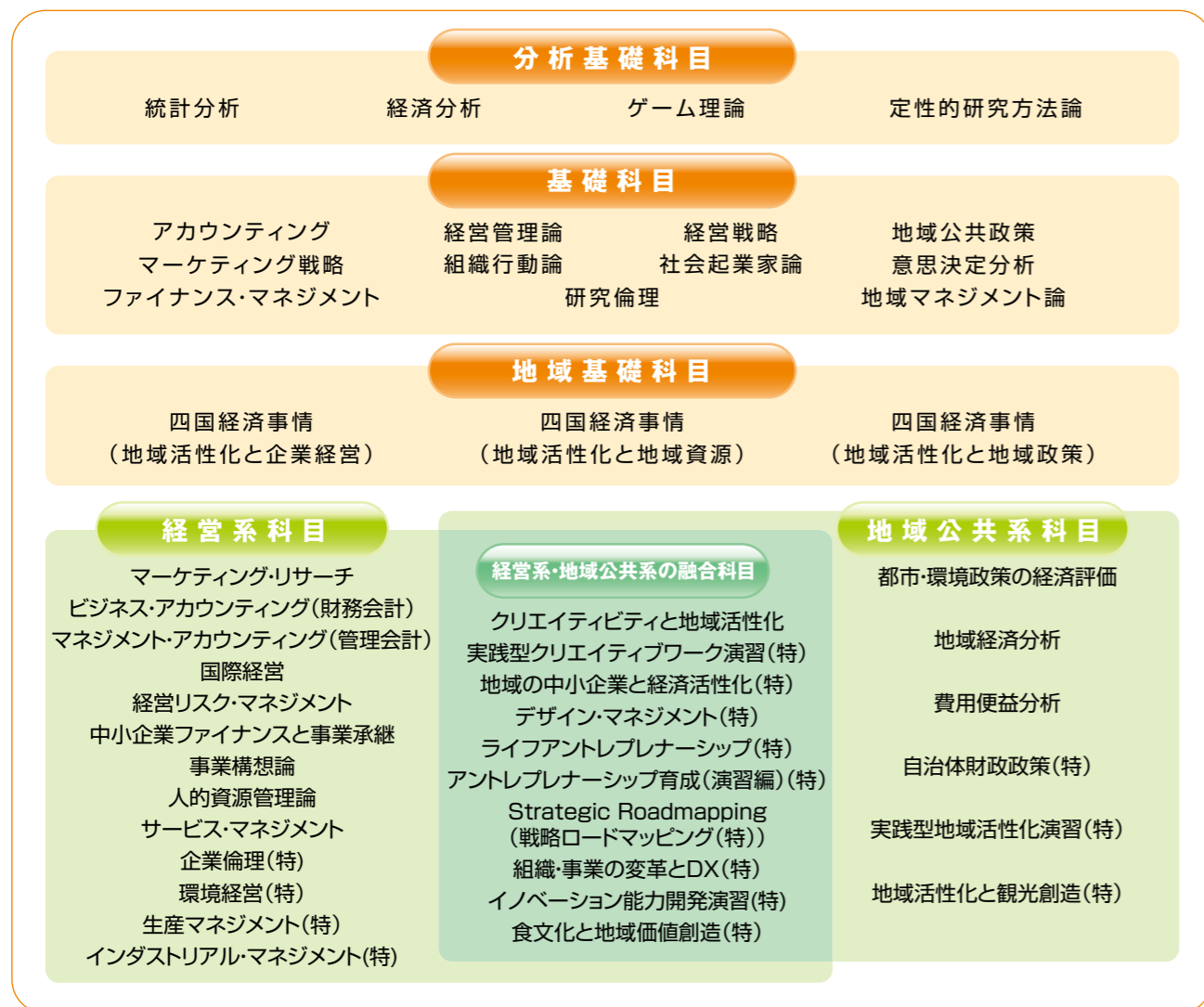
討論が出来るスペースやPCを備えた24時間利用可能な本研究科専用ラウンジとPCルームを整備するほか、一部科目では、遠隔で講義が受講できます。また欠席及び復習用に講義収録を行う科目もあり、忙しい社会人が学びやすい環境です。

E 絆を深める多彩なイベント、交流の機会も豊富

いま地域では、民間企業と行政、NPOなど、市民組織の連携が求められていますが、異業種や異分野の人々と顔見知りになる機会は意外に少ないのが現状です。本研究科では多様な業種の社会人が学びの場を通して志を同じくし、学生同士の貴重な人的ネットワークが形成されます。こうした絆は、通常の講義でのグループ単位によるケースディスカッションをはじめ、合宿など、多彩な交流の機会によって育まれます。

地域リーダーを育成する経営・地域公共の融合的カリキュラム

地域活性化に貢献するリーダーを養成するため、本研究科は一般的なMBAに地域の要素を加え、経営系と地域公共系を融合したカリキュラムを構築しています。学生諸氏は、分析基礎科目、基礎科目、地域基礎科目、応用科目などのカテゴリーの中から、各々の問題意識や志向性に沿って科目を選択し、地域の問題を的確に把握し解決する能力や、組織をマネジメントする能力などを身につけます。



■研究倫理、Strategic Roadmapping(戦略ロードマッピング(特))、組織・事業の変革とDX(特)及びイノベーション能力開発演習(特)は各1単位、プロジェクト演習・研究は各4単位、他の科目は2単位、(特)は年度ごとに設置する特別講義。
 ■修了要件・・・基礎科目10単位以上、地域基礎科目4単位以上、分析基礎科目4単位以上、プロジェクト科目8単位。合計40単位以上。

科目群	授業科目	単位	開講	担当教員名
分析基礎科目	統計分析	2	前期	島根 哲哉
	ゲーム理論	2	後期	穴戸 栄徳(非常勤)
	経済分析	2	前期	長町 康平
	定性的研究方法論	2	後期	松下 元則
基礎科目	研究倫理	1	集中	中村 正伸・大崎 孝徳
	経営戦略	2	前期	西中 美和
	アカウンティング	2	集中	中村 正伸
	組織行動論	2	前期	吉澤 康代
	経営管理論	2	前期	松下 元則
	マーケティング戦略	2	前期	大崎 孝徳
	ファイナンス・マネジメント	2	前期	三好 秀和
	地域公共政策	2	前期	井島 慎一(特命)
	地域マネジメント論	2	集中	原 真志
	社会起業家論	2	前期	佐藤 勝典
	意思決定分析	2	後期	滝 聖子
地域基礎科目	四国経済事情(地域活性化と地域政策)	2	前期	長町 康平・非常勤講師
	四国経済事情(地域活性化と企業経営)	2	後期	西中 美和・非常勤講師
	四国経済事情(地域活性化と地域資源)	2	集中	佐藤 勝典・非常勤講師
応用科目	マーケティング・リサーチ	2	後期	大崎 孝徳
	ビジネス・アカウンティング(財務会計)	2	後期	國村 年(非常勤)
	マネジメント・アカウンティング(管理会計)	2	後期	中村 正伸
	人的資源管理論	2	前期	吉澤 康代
	都市・環境政策の経済評価	2	後期	島根 哲哉
	国際経営	2	後期	山本 靖(特命)
	地域経済分析	2	後期	長町 康平
	費用便益分析	2	集中	那須 清吾(非常勤)
	経営リスク・マネジメント	2	前期	辻 紳一(非常勤)
	事業構想論	2	前期	山本 靖(特命)
	クリエイティビティと地域活性化	2	集中	原 真志
	サービス・マネジメント	2	前期	西中 美和
	中小企業ファイナンスと事業承継	2	後期	三好 秀和
特別講義	企業倫理	2	後期	元木 将道(非常勤)
	環境経営	2	集中	木全 晃(非常勤)
	自治体財政政策	2	集中	井島 慎一(特命)
	生産マネジメント	2	前期	北 真収(非常勤)
	実践型地域活性化演習	2	後期	井島 慎一(特命)
	地域の中小企業と経済活性化	2	後期	かがわ産業支援財団提供講義・三好 秀和
	地域活性化と観光創造	2	後期	四国ツーリズム創造機構提供講義・佐藤 勝典
	ライフアントレプレナーシップ	2	前期	原 真志・徳倉 康之(特命)
	アントレプレナーシップ育成(演習編)	2	集中	沼田 秀穂(非常勤)・吉澤 康代・西村 美樹(特命)
	インダストリアル・マネジメント	2	前期	滝 聖子
	食文化と地域価値創造	2	後期	西村 美樹(特命)
	Strategic Roadmapping(戦略ロードマッピング)	1	集中	西中 美和
	組織・事業の変革とDX	1	後期	株式会社フォーバル提供講義・中村 正伸
	イノベーション能力開発演習	1	後期	西中 美和・福武財団講師
プロジェクト科目	プロジェクト演習	4	前期・集中	全専任教員
	プロジェクト研究	4	後期	全専任教員

専任教員



教授 研究科長
Masanobu Nakamura
中村 正伸

略歴

【学 歴】一橋大学法学部卒(1995)
一橋大学大学院法学研究科修士課程修了(1999)・法学修士
明治大学大学院経営学研究科博士後期課程修了(2014)・博士(経営学)
【職 歴】プライスウォーターハウス・コーパース・コンサルティング(現IBM,1999-2004)
新日本監査法人(現新日本有限責任監査法人,2005)
アルテミス・ビジネス・コンサルティング(2006-2011)
アビームコンサルティング(2011-2014)
香川大学大学院地域マネジメント研究科教授(2019-)

担当授業科目

アカウントینگ
マネジメント・アカウントینگ
研究倫理

アカウントینگでは、会計に期待されている役割を考察します。数年前発覚した内資大手企業や監査法人を巡る会計不祥事を頭の片隅に置く必要はあるものの、そもそも会計の果たす役割について、過去・現在・未来の時間軸で検討したいと思います。マネジメント・アカウントینگでは、その目的である組織のメンバーの「動機付け」を念頭に議論を行います。組織・個々人の責任を明確にして、前向きな気持ちを持たせてやらせてみる、そしてその業績を評価する。その役割を担うのがマネジメント・アカウントینگです。組織は生き残りをかけて変化へ対応する必要があります。そのためにマネジメント・アカウントینگが果たす役割を皆さんと考えたいと思います。

研究テーマ

研究実績・実務業績

プロジェクト組織におけるマネジメント・アカウントینگ、即ち管理会計の役割を研究しています。プロジェクト組織は、特定目的のために編成される臨時組織であり、目的を達成すれば解散します。従来管理会計は、部門と呼ばれる比較的安定的な組織を前提に研究がなされてきました。しかし、製品やサービスのライフサイクルが加速度的に短期化している現代においては、変化に対応して、新しい製品やサービスを継続的に市場に送り出す必要があります。そのために、常に組織の編成・解散を繰り返し臨機応変に対応することになります。そのような活動を有限な資源により遂行していくための会計の役割を研究しています。近年は特に、アジャイル、DXの切り口でも研究を進めています。



教授 副研究科長
Yasuyo Yoshizawa
吉澤 康代

略歴

【学 歴】慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程修了
【学 位】政策・メディア 博士(慶應義塾大学)(2009)
【職 歴】株式会社ヒューマンリソース研究所(1996-2005)、株式会社コーポレートユニバーシティプラットフォーム(2006-2010)、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任講師(常勤)(2010-2013)、香川大学大学院地域マネジメント研究科専任講師(2013-2017)香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授(2017-2024)、香川大学大学院地域マネジメント研究科教授(2024-)
【公職等】香川県行政経営推進会議(旧行政改革推進会議)副議長(2019-)、人材育成学会役員編集委員会委員(2020-)、丸亀市行政改革推進委員会委員長(2021-)、厚生労働省「地域雇用活性化推進事業」地域雇用活性化支援アドバイザー(2021-)、高松市自治推進審議会委員(2021-)、人材育成学会常任理事(2025-)

担当授業科目

組織行動論
人的資源管理論
アントレプレナーシップ育成
(演習編)

グローバル、ダイバーシティが進展する中、多様な「人」といかに向き合い、組織力を高めていくのか。次世代のマネジメントに求められる視点です。そのような「人」に焦点を当てた科目が「組織行動論」「人的資源管理論」です。いずれの科目も理論だけでなく、ケースをもとにディスカッションやグループワークを通じて学んでいきます。実践から学ぶ「アントレプレナーシップ育成」にも携わっています。【組織行動論】個人、集団、組織が陥りやすい課題を整理し、個人の意識・態度・行動(パーソナリティ、コミュニケーション、コミットメント、リーダーシップなど)を活性化し、その集合体となる組織の成果(組織風土、組織変革など)をいかに高めていくのかについて考えます。【人的資源管理論】人材マネジメントの古典的な機能は「序列」「評価」「報酬」「配置・異動・昇格」「教育・開発」です。これらの機能は経営のカスケード、すなわち組織の「ミッション」「ビジョン」「方針」「戦略」の流れを汲んで運用される必要があり、それを「戦略的人的資源管理」と言います。人材マネジメントの機能を理解し、戦略的人的資源管理について考えます。

研究テーマ

研究実績・実務業績

「個人と企業組織の関係性(組織コミットメント、組織風土、モチベーションなど)」「働き方」「キャリア」を研究領域とし、これまで「テレワーク」「ワーク・ライフ・バランス」「ダイバーシティ」などを扱ってきました。最近「ライフキャリアにおけるワークモチベーションのダイナミズム研究」「ケースメソッド研究会」「キャリアワークショップ」に力を入れています。モチベーションの主要理論は若年成人を対象に精緻化され、少子高齢化が進む中、その説明力に限界がきています。生涯現役社会に向けて中高年成人のモチベーション理論の構築を目指しています。

専任教員



教授
Takanori Osaki
大崎 孝徳

略歴

【学 歴】九州大学大学院経済学府企業産業システム専攻博士後期課程修了(2005)・博士(経済学)
【職 歴】トヨタ自動車株式会社(1993-1995)
長崎総合科学大学工学部専任講師(2000-2002)助教授(2003-2005)
名城大学経営学部助教授(2005-2007)准教授(2007-2010)教授(2010-2018)
ワシントン大学客員研究員(2007-2008)
デラウェア大学特任教授(2018-2020)
神奈川大学経営学部教授(2020-2023)
香川大学大学院地域マネジメント研究科教授(2023-)

担当授業科目

マーケティング戦略
マーケティング・リサーチ
研究倫理

【マーケティング戦略】マーケティングを戦略的に実行していくための考え方及び手法について学びます。具体的には、マーケティング戦略の基礎となる事業戦略及び競争地位別戦略、STP、マーケティング・ミックス(商品・価格・流通・プロモーション)戦略について検討します。さらに、近年注目される「消費者との関係性」「ブランド」「グローバル」「社会」といったキーワードと関わるマーケティングの戦略的実行に関して理解を深めます。【マーケティング・リサーチ】マーケティングの意思決定を支援するために必要な情報の収集・分析について学びます。具体的には、マーケティング・リサーチの概念、プロセス、定性・定量調査、消費者ニーズの把握、新製品・サービス開発など、実践的なテーマを取り上げます。

研究テーマ

研究実績・実務業績

これまで「ICTを活用した消費者との関係性構築」、「携帯電話端末の国際マーケティング」といった研究テーマに取り組んできました。現在は「価格競争を回避するための商品・サービスの高付加価値化(プレミアム化)」というテーマに取り組んでいます。コスト優位性に劣る日本企業にとって重要なテーマであると考えています。こうした研究から得た知見を活かし、今後は「地域産品のマーケティング戦略」について、生産者・流通業者・地方自治体への個別訪問面接調査、消費者への質問票調査などを通じて探究していきます。



教授
Seiko Taki
滝 聖子

略歴

【学 歴】岡山大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了(2006)・博士(工学)
【職 歴】首都大学東京(現・東京都立大学)システムデザイン学部研究員・助教(2006-2013)
千葉工業大学社会システム科学部 准教授(2013-2019)、教授(2019-2024)
千葉工業大学情報変革科学部 教授(2024-2025)
日本マテリアルフロー・研究センター 学術研究員(2020-)
香川大学大学院地域マネジメント研究科 教授(2025-)
【公職等】日本経営工学会論文誌編集委員(2013-2015,2017-2023)、代議員(2019-2023)、監事(2023-)
Innovation and Supply Chain Management, Editorial Committee Member(2022-)
日本ホスピタリティ・マネジメント学会 理事(2025-)

担当授業科目

意思決定分析
インダストリアル・マネジメント

【意思決定分析】各組織の管理職・経営者は様々な日々の意思決定を定量的な手法を用いて実行する必要があります。あらゆる組織では常に判断と決断が求められ、間違ると致命的な損害を与える場合もあります。本授業では、情報化社会において、需要予測、生産計画、在庫管理、輸送計画、人員配置計画、日程計画などの戦略的な意思決定を行うためのシミュレーション技法を講義します。【インダストリアル・マネジメント】インダストリアル・マネジメント(経営工学)とは、経営上の諸問題を発見して解決するための工学的アプローチを基本としたマネジメント技術です。生産・製造だけでなく、現在の様々な形態、サービスに携わる組織も対象に、業務上の無駄を可視化して問題点を把握し、改善するための手法を学びます。

研究テーマ

研究実績・実務業績

情報技術を活用し、人々の労働・生活の質の向上を支援するために、製造業や福祉サービス業等における作業の効率化と負担軽減、熟練技術・技能伝承のための教育などをテーマに研究しています。現場と連携して問題点を把握し、解決するための方法やシステムの提案、実施及び効果の検証を行っています。また、ワークライフバランスの実現を目的として、家庭内作業(家事、育児)の分析と負担軽減のための研究も行っています。受賞:日本福祉工学会 論文賞(2021)、日本経営工学会 論文賞(2023) 等



教授

Miwa Nishinaka

西中美和

略歴

【学 歴】北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科 博士後期課程修了(2015)・博士(知識科学)
 慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 経営管理専攻修了(2001)・修士(経営学)
 【職 歴】日本アイ・ビー・エム(株)(1986-2014)
 北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科 研究員(2015-2016)
 総合研究大学院大学 特任准教授(2016-2019)
 香川大学 大学院地域マネジメント研究科 教授(2019-現在)
 香川大学 大学院創発科学研究科 教授(2024-現在)
 【公職等】研究・イノベーション学会 審議員(2025-現在)
 日本ナレッジ・マネジメント学会 学会誌編集委員(2020-現在)、編集長(2024-現在)
 香川県職業能力開発審議会 会長(2019-現在)
 国土交通省四国地方整備局入札監視委員会委員(2024/4-現在)

担当授業科目

経営戦略
 サービス・マネジメント
 Strategic Roadmapping
 イノベーション能力開発演習
 四国経済事情
 (地域活性化と企業経営)

【経営戦略】組織が価値を創出し将来展望を考える上で重要な、事業定義の考え方、競争優位を築くための戦略、コア・コンピタンス等に関わる、代表的な経営戦略の理論とフレームワークを、実際の事例を交えながらの講義や、討議を通じて体系的に習得できます。
 【サービス・マネジメント】価値共創、ウェルビーイング、ホスピタリティ、共感、信頼等、サービスシステムを構築するために必要な代表的理論と方法論を、事例や演習を通じて体系的に習得できます。
 【Strategic Roadmapping】ロードマッピングは、社会との関りを戦略的・俯瞰的に考え、将来にわたる流れを可視化するための手法です。組織間での認識合わせや意思統一などにも使用されます。この手法により様々な計画の作成ができます(英語授業)。
 【イノベーション能力開発演習】ビジネス分野でも注目されているアートを用いた対話型鑑賞法とロードマッピングを組み合わせた演習で、イノベティブな発想を実践に適用できるような能力を習得できます。

研究テーマ

研究実績・実務業績

経営資源として重要な知識資源の中でも、特に、暗黙的知識をコア・コンピタンスと位置づけ、その知識が表出化・明確化され、組織的知識となってゆくプロセスの概念モデル化・方法論化(ロードマッピング等)の研究を行っています。知識のつながりは価値を生み出すため、対象範囲を地域に拡張し、持続的価値共創によるウェルビーイングを目指すためのモデル形成に関わる研究も進めております。具体的には、観光地の組織における知識の流れが住民の認知と地域の変化に与える影響の研究です。
 受賞:第8回知識共創フォーラム 論文共創賞受賞(2019年3月)
 Outstanding Paper Award at the 17th International Conference on Knowledge, Information and Creativity Support System (2022年12月)
 Best Paper Award at the Human Side of Service Engineering, AHFE 2024 International Conference (2024年7月)



教授

Shinji Hara

原 真志

略歴

【学 歴】東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学(1995)・修士(理学)
 【職 歴】香川大学経済学部専任講師(1995-1996)、同助教授(1996-2004)
 香川大学大学院地域マネジメント研究科助教授(2004-2007)、同准教授(2007-2010)
 同教授(2011-)、カリフォルニア大学ロサンゼルス校客員研究員(1998-2000、2011-2012)
 香川大学大学院地域マネジメント研究科研究科長(2015-2023)
 【公職等】「四国八十八景選定委員会」選定部会委員(四国地方整備局)、「映像コンテンツ・ビジネスモデル研究会」委員(経済産業省)、広域周遊観光促進四国地域連絡調整会議(四国運輸局)
 香川県産業成長戦略に関する懇談会委員、三豊市総合計画審議会委員長
 香川ビジネス&パブリックコンベン実行委員長、Setouchi-i-Base アドバイザーなど

担当授業科目

地域マネジメント論
 クリエイティビティと
 地域活性化
 ライフアントレプレナーシップ

【地域マネジメント論】地域のマネジメントには何が求められるか?企業にとって地域の意味は何か?地域の様々な課題を解決するポイントは何か?ネットワーク・知識創造・リーダーシップ・クリエイティビティ・信頼・エフェクチュエーションなどのテーマを、ケースと理論の両面から考えます。地域活性化に取り組む際に共通して必要な考え方を身につけ、本物の実践的思考力を養う場を提供します。
 【クリエイティビティと地域活性化】地域の隠れた魅力に光をあて、地域の要素を効果的に組み込んだ深いストーリーの映画脚本作成と、映画と地域資源のコラボによるビジネスプランの作成により、個性あるクリエイティビティを發揮しての地域活性化を目指します。【実践型クリエイティブワーク演習】地域映画や地域版ブランドコンテンツの脚本を練り上げる実践的演習を行います。

研究テーマ

研究実績・実務業績

徹底した現場主義と、定性・定量の両方を用いる複眼的アプローチが持ち味で、クリエイティビティと異なる知識の融合を対象としています。アメリカのロサンゼルスにあるUCLAで1998年から1年半研究して以来、ハリウッド映画産業に関する現地調査に基づく研究を進め、日本の映画・アニメ産業との比較分析を行っています。さらに香川、四国、瀬戸内の地域活性化に関して、1) 瀬戸内の島嶼部を対象にした地域活性化の研究、2) 地域におけるアントレプレナーシップや地域から国際展開を狙うアントレプレナーシップの研究、3) 香川漆器など伝統産業の国際化に関する研究、そしてMBAならではの研究と実践をつなぐ取組みに力を入れています。



教授

Hidekazu Miyoshi

三好 秀和

略歴

【学 歴】慶應義塾大学経済学部卒業(1986)、早稲田大学大学院ファイナンス研究科修了(2006)・ファイナンス修士、京都大学経済学博士(2012)
 【職 歴】第一生命保険相互会社(1986-2001)、日経QUICK情報編(2001-2007)、立命館大学大学院経営管理研究科教授(2007-2017)、一般社団法人高度人材養成機構理事長(2017-2020)、香川大学大学院地域マネジメント研究科教授(2020-)
 【公職等】日本FP学会理事、生命保険経営学会、日本商工会議所・金融事情研究会主催DCプランナー認定制度企画委員、日本証券アナリスト協会主催プライベートバンキング試験制度試験委員、日本証券アナリスト協会主催資産形成コンサルタント教育委員、香川大学金融証券研究会顧問、日本ベンクラブ会員、金融経済教育機構認定アドバイザー(2024-)

担当授業科目

ファイナンス・マネジメント
 中小企業ファイナンスと
 事業承継

ファイナンス・マネジメントの講義対象は企業です。企業経営と金融・資本市場とがどのような関わりをもって経済活動をおこなっているのかを検討します。初学者向けの基本科目であることを踏まえてファイナンスの基本概念が身に着くように講義します。中小企業ファイナンスと事業承継は応用科目です。企業の生成から成長、発展し、株式を公開し上場するまでをファイナンスの3つ(自己資本、借入、ベンチャーキャピタルによる出資)の観点から検討します。受講生は自らシミュレーション上の起業をしながら企業の成長プロセスが体感できます。その成長過程でコーポレートファイナンスの主要な技法を学ぶことができます。さらに、中小企業の課題である事業承継の方法論を学びます。

研究テーマ

研究実績・実務業績

これまで資産運用業の研究をおこなってきました。現在はリーマンショック以降、少子高齢化による人口オーナス社会の中で誇り高く調和のとれた共生社会を生み出すために、金融が果たす役割は何かを研究しています。キーワードを示せば、個人の視点ではリタイアメントプラン、リバースモーゲージ、企業の視点では働き方改革、事業承継、金融の視点では地域創生ファンド、地域通貨、そして、財政の視点では、共生社会の実現、民生費、社会保障費、地方への税移譲、シェアリングエコノミーです。学術的な貢献に留まることなく地域で実践的に役立つことが必要であると考えています。



准教授

Katsunori Sato

佐藤 勝典

略歴

【学 歴】慶應義塾大学商学部卒業(2002)
 慶應義塾大学大学院商学研究科博士前期課程修了(2005)
 東北大学大学院経済学研究科博士課程後期3年の課程修了(2012)・博士(経営学)
 【職 歴】東北大学大学院経済学研究科博士研究員(2012-2015)
 香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授(2015-)

担当授業科目

社会起業家論
 地域活性化と観光創造
 四国経済事情
 (地域活性化と地域資源)

【社会起業家論】現代社会では、貧困、ニートや障害者など社会的弱者に関する様々な社会的課題が起きている。これらの課題をビジネスの手法を用いて収益を上げながら事業性を兼ね備えて解決しようとする社会起業家に注目して理論と実態の両面から講義を行う。
 【地域活性化と観光創造】四国ツーリズム創造機構と四国経済団体連合会の提供講義である。四国各地を中心として観光関係で活躍するゲストスピーカーに講演してもらう。その後、講演をもとにディスカッションを行うことで、受講生の理解を深め、地域社会や所属する組織での活用を検討する。

研究テーマ

研究実績・実務業績

社会的企業が地域コミュニティにどのような影響を与えるのか、社会的弱者をどのように包摂していくのかについて関心を持っている。これまで、中山間地域のコミュニティビジネスや東日本大震災の被災当事者による社会的企業をテーマとして研究を実施してきた。現在は、瀬戸内の地域コミュニティでの社会的企業と障害者のライフタイムの視点に立った就労移行支援などの社会参加をテーマとして研究している。

専任教員



准教授

Tetsuya Shimane

島根 哲哉

略歴

[学 歴] 東京工業大学大学院理工学研究科修士課程修了
 [職 歴] 麗澤大学国際経済学部助手(1996-1998)
 東京工業大学大学院情報理工学研究科助手・助教(1998-2016)
 学習院大学政治学研究所非常勤講師(2005-2008)
 上智大学経済学部非常勤講師(2010-2019)
 東京工業大学工学院助教(2016-2019)
 香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授(2019-)

担当授業科目

統計分析
 都市・環境政策の経済評価

[統計分析]個人の経験のみによらない客観的な“事実”を理解することが、様々な場面で求められています。“事実”を見つけ出すためには、集めたデータを統計学的な観点から分析することが有用です。この講義では、サンプルデータを分析する実習を交えて、統計学の基礎を理解し、実践的な分析スキルの獲得を目指します。

[都市・環境政策の経済評価]事実に基づいた判断が、政策決定や経営判断の場で重視されつつあります。そのためには、理論的な知見に基づいて問題をモデル化すること、政策がもたらす結果の変化を明らかにするために定量的にデータで分析を行うことが必要です。この講義ではいくつかの都市・環境政策について経済学モデルを通じて考察し、その成果を定量的に評価する方法を学びます。

研究テーマ

研究実績・実務業績

計量経済学の方法を用いて、個人や企業などの意思決定の実証的経済分析に取り組んでいます。特に空間的に影響を受けるモデルや離散的な選択を扱うモデルに関心を持っています。

分析の対象はあまり限定せず、企業の市場参入や女性の労働参加、環境政策の評価など広く取り組んでいます。



准教授

Kohei Nagamachi

長町 康平

略歴

[学 歴] 東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学(2012)・博士(経済学)
 [職 歴] 日本学術振興会特別研究員DC2(2010-2011)
 横浜国立大学経済学部非常勤講師(2011-2013)
 東京大学大学院経済学研究科助教(2012-2013)
 京都大学経済研究所非常勤講師(2014)
 香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授(2014-)
 [公 職] 経済産業研究所・地域経済プログラム・プロジェクトメンバー(2013-2017)
 東かがわ市基本構想審議会会長(2022-2023)
 東かがわ市総合戦略審議会会長(2024-2025)

担当授業科目

経済分析
 地域経済分析
 四国経済事情
 (地域活性化と地域政策)

[経済分析]家計・企業等の経済主体の意思決定問題とそこから派生する市場・非市場における諸現象を分析対象とするミクロ経済学を体系的に学びます。経済学の基礎であるミクロ経済学を学ぶことで経済学の応用分野へ進む基礎力を提供すると同時に、経済情勢や経済政策の意義・必要性を大局的な視点から理解する能力を身につけます。

[地域経済分析]地域(都市を含む)の経済活動を分析するための経済学を学びます。具体的には、なぜ都市が存在するのか、都市の人口規模はどのように決まるのか、といった基本的内容やその他地域の経済活動を理解する際に役立つ視点を学びます。また、都市が世界の貿易拠点である点を考慮し、国際貿易についても経済学的視点から学びます。

研究テーマ

研究実績・実務業績

経済活動の空間分布の決定メカニズムとそれが経済成長・格差、社会厚生にもたらす影響について、空間・都市経済学、マクロ経済学の分析手法を用いて理論的・数量的に分析しています。特に、都市システム、産業構造変化、スキルの空間分布に関心があります。

論文:

"Learning about the liveability of cities from young migrants using the combinatorial Hodge theory approach" (with Takaaki Aoki and Tetsuya Shimane), npj Urban Sustainability, Vol.5, No.84, October 2025.

専任教員



准教授

Motonori Matsushita

松下 元則

略歴

[学 歴] 中央大学大学院総合政策研究科修士課程修了(2000)・修士(総合政策)
 一橋大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得退学(2007)
 [職 歴] 中央大学研究開発機構準研究員(2000-2003)
 函館大学商学部専任講師(2007-2009)
 函館大学商学部准教授(2010-2011)
 福井県立大学経済学部准教授(2012-2024)
 香川大学大学院地域マネジメント研究科准教授(2025-)

担当授業科目

経営管理論
 定性的研究方法論

[経営管理論]経営管理論は、組織の管理・運営を研究する学問です。この講義では、組織の構造に注目するマクロ組織論を中心に、組織を管理する際に必要となる経営管理論の基本的な知識を解説します。

[定性的研究方法論]定性的研究では、インタビューや参与観察、歴史資料等から、文章が中心となっているデータを集めて、日常言語に近い言葉による記述と分析を行います。この講義では、実習を交えながら、フィールドワークなどの定性的研究の方法を解説します。

研究テーマ

研究実績・実務業績

「食」と関連のある経営現象に関心があります。以前は、中国における日本の食品メーカーの戦略について研究していました。現在は、日本各地のバル・イベントのルーツである「函館西部地区バル街」の事例研究に基づいて、地域の文化や景観を活かした飲食イベントのマネジメントと、飲食イベントが開催地域や地域住民に及ぼす影響について研究しています。

特任教員



特命教授

Shinichi Iijima

井島 慎一

略歴

[学 歴] 慶應義塾大学商学部卒業(1989)
 福島大学大学院経済学研究科修士課程修了(2021)
 東北大学大学院情報科学研究科博士課程後期単位取得満期退学(2025)
 [職 歴] 会津若松市役所(1989-2026)。総務部長(2022-2026)、同副部長(2020-2022)、総務課長(2017-2020) 地域づくり課長(2015-2017)
 香川大学大学院地域マネジメント研究科特命教授(2026-)

担当授業科目

地域公共政策
 自治体財政政策
 実践型地域活性化演習

[地域公共政策]行政、議会、企業、NPO、住民等の主体が政策過程にどう関わるのかを理解するため、公共政策の理論を学びます。事例分析を通じて課題を抽出し対案を構想することで、政策を学ぶだけでなく創る力を身につけることも目指します。

[自治体財政政策]自治体財政を政策実現の基盤と捉え、制度を理解し、財政データから課題を評価します。実効的な政策を立案する観点から予算編成の手法や過程を学び、財政を「読み、評価し、政策実現のために使いこなす」力を養います。

[実践型地域活性化演習]香川県内や四国地域の地域活性化事例を題材に、現場で聞き取りを行い、課題を分析して改善策を検討します。地域の現場を「調べ、考え、討議し提案する」プロセスを通じて、地域政策を実践的に進める力を養います。

研究テーマ

研究実績・実務業績

地方自治体の実務家として、地方議会改革、地域公共交通、地域づくりなどの分野で、政策の構想・計画策定から制度・事業スキームの設計、実装までに携わってきました。同時に社会人学生として修士・博士課程で計量的手法を学び、議会規模と財政支出の関係、議員のなり手不足、地方議会のデジタル化に関する実証分析に取り組んできました。現在は、地方議会改革を参加(Input)-制度(System)-成果(Output)のつながりとして捉え、制度改革とデジタル技術(AIを含む)が地域民主主義の包摂性や多様性にどう関わり得るかを研究しています。



特命教授

Yasushi Yamamoto

山本 靖

略歴

[学 歴] 慶應義塾大学工学部卒業
早稲田大学大学院アジア太平洋研究科修士課程修了 国際経営学修士
早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士後期課程修了 博士(学術)
[職 歴] 総合商社大倉商事株勤務後、日本と米国でシリアル・アントレプレナーとして起業多数
ジーダット(JASDAQ 3841)、オリックス・キャピタル、プライムゲート、PALTEK(東証2部7587)
その他企業の社外役員や顧問就任。千葉工業大学非常勤講師、東海大学非常勤講師
香川大学大学院地域マネジメント研究科特命教授(2021-)
香川大学イノベーションデザイン研究所ディレクター併任(2025-)
[公 職] 日本システムデザイン学会 広報委員会 担当理事(2020-)
東かがわ市 市温浴施設「白鳥温泉」プロポーザル審査委員

担当授業科目

国際経営
事業構想論

[国際経営]香川県を含む四国地方の企業の課題の一つは、海外展開とグローバル・ビジネスをいつ、どうやって進めるのかという点にあります。このチャレンジに必要な国際経営における経営理論ならびに海外進出時のプロセスや意思決定について学びます。国際社会で活躍できかつ企業・組織内で活用できる教養とマネジメント能力を身に付けます。
[事業構想論]起業家活動、ベンチャー企業経営、ファミリービジネス、産官学連携、事業再生、スピンオフ、NPO、起業家精神の背景にある米国哲学等のケース・メソッドによる学習、ゲスト講師の講話から新しい知識獲得、理論書の輪読等を通じて、ビジネスプランあるいは小論文を論述できる能力、学会で研究発表できる能力を身に付けます。

研究テーマ

研究実績・実務業績

実務家としてエレクトロニクスやソフトウェア産業で民間企業の経営管理に従事してまいりました。また日米でベンチャー企業を設立し、経営責任者としてオペレーションを経験しております。経営管理、システム設計、プロジェクト管理、ビジネス上の意思決定や交渉、企業倫理、中小企業・ベンチャー企業のガバナンスをテーマに研究や執筆活動を行っています。
受賞:「製品開発工程におけるイタレーションによる負荷とリスク・アセスメントに関する研究」日本設計工学会論文誌 平成17年度論文賞受賞



特命准教授

Yasuyuki Tokukura

徳倉 康之

略歴

[学 歴] 法政大学法学部法律学科(2002)、香川大学大学院地域マネジメント研究科(2018)
[職 歴] 大学卒業後大手日用雑貨メーカーにて営業職として10年勤務後、NPO法人ファザーリング・ジャパン事務局長としてNPOの組織運営に関わり、現在は副代表理事。
株式会社ファミリーエ代表取締役、たかまつ男女共同参画ネット理事長、高松市男女共同参画センター長などを務めている
香川大学大学院地域マネジメント研究科特命准教授(2025-)
[公 職] 内閣府男女共同参画計画実行・監視専門調査会専門委員、第6次基本計画策定専門調査会委員ほか、子ども家庭庁子ども・子育て支援等分科会委員

担当授業科目

ライフアントレプレナーシップ

本講義では地域特性、課題解決、経営者個人の思考、経営の継承等により「新しいスタイルの経営者」の存在が散見されるようになりました。そこでこの新しいスタイルの経営者を「ライフアントレプレナー」ととらえ、地域における起業・創業・複業・継承の在り方を学び、起業家マインドやそれを支える地域リーダーの養成を目指します。このライフアントレプレナーとは「個人のライフ(生活)から社会にイノベーションを起こし、自分と周囲の人生を豊かにそして満足できるものに変える起業家。成熟社会における起業家タイプの一つ」と定義し授業を進めます。授業では実際の経営者をお招きし、事業内容の説明はもちろんの事、院生との対話の時間を取り率直な議論を交わす事も想定しています。

研究テーマ

研究実績・実務業績

女性医師の就労継続要因・個人、組織の働き方改革・組織のマネジメント、男女共同参画、男性の育児参画等を主な領域とし、経営する会社事業としては企業・自治体・大学・高校・医療機関等での研修・講演、セミナーに加え自治体委託事業、個別企業に対する働き方関連コンサルティングを行う。またNPO法人理事長として「高松市男女共同参画センター」の運営責任者も務めている。



特命准教授

Miki Nishimura

西村 美樹

略歴

[学 歴] 香川大学大学院地域マネジメント研究科修了(2018年3月)
立命館大学大学院食マネジメント研究科博士課程後期課程(2024年4月-)
[職 歴] 日本公認会計士協会四国会事務局長(-2019年)、瀬戸内海食ラボ代表(2019年-)
香川大学大学院地域マネジメント研究科 産官学連携研究員(2021年-2022年)
香川大学大学院地域マネジメント研究科 特命講師(2022年-2024年)
香川大学大学院地域マネジメント研究科 特命准教授(2025年-)

担当授業科目

食文化と地域価値創造
アントレプレナーシップ育成
(演習編)

「食文化と地域価値創造」は、地域の風土・歴史・生活文化に根ざした食の価値を地域資源として捉え直し、観光・産業・地域経営へと展開する方法を学びます。講義と演習を組み合わせ、具体的な地域事例や実務家の知見を取り入れながら、地域資源を活用した価値創造の思考と手法を身につけます。
「アントレプレナーシップ育成(演習編)」は、地域課題の発見から解決策の構想、企画の具体化、発表までを実践的に学びます。地域資源を活用したビジネスや観光コンテンツの事業プランを検討し、次の「道場編」での実装につながる基礎的な力を養成します。
いずれの科目も、地域に内在する資源の価値を見極め、創造的に編集し、持続可能な地域の未来を構想して行動できる人材の育成を目指します。

研究テーマ

研究実績・実務業績

瀬戸内の食文化に地中海食のエッセンスを融合させた「瀬戸内海食」という新たな食の概念を創造し、このコンセプトを地域活性化へと展開するための研究に取り組んでいます。瀬戸内の風土と伝統的食文化に、持続可能な食システムとして注目される地中海食の思想を組み合わせることで、健康・環境・経済・文化を横断する新たな地域価値の創出を目指しています。さらに瀬戸内圏における広域的な連携(地域エコシステム)や、地域資源とその背景にあるストーリーを活かした食の開発を通じて、食と観光を結びつける地域づくりの可能性を探求しています。
本州四国高速道路(株) 共同研究「瀬戸内における島旅による地域活性化に関する研究」(2020年9月-2022年3月)・NECソリューションイノベータ(株) 共同研究「アントレプレナーの事業化プロセスにおけるビジョン形成の知識創造と組織的実践の促進に関する研究」(2022年12月-2024年3月)・(株)JTB高松支店 受託研究「讃岐広島における食の体験観光コンテンツ造成に関する研究」(2023年9月-2024年1月)

学びの志に応える、充実した学習設備



講義室

特別講義室、第二講義室の2つを専用的に使用しています。特別講義室と第二講義室は、教員と学生との双方向の授業形式に合う設計になっています。2つの講義室とも講義収録システムを含む最新の情報機器を整備しています。プロジェクト演習・研究には演習室を使用します。



24時間学べる環境

地域マネジメント研究科専用のラウンジ(自習室)とPCルームは24時間利用可能となっています。またPCには統計解析ソフト(SPSS)等研究に必要な設備を兼ね備えており、学習意欲に応える環境が整っています。大学図書館は22時まで利用可能です(休業期間・祝日を除く)。

沼田 秀穂 大和大学政治経済学部 教授

國村 年 國村公認会計士事務所 所長

(2025年度の講師です。)

非常勤講師

非常勤講師は変更になる場合があります。

担当授業科目 四国経済事情(地域活性化と地域政策)

大塚 竜 日本銀行高松支店長

大島 朗 財務省 四国財務局長

竹内 純一 四国森林管理局長

豊口 佳之 国土交通省 四国地方整備局長

河野 順 国土交通省 四国運輸局長

友住 弘一郎 香川労働局長

池田 豊人 香川県知事

大西 秀人 高松市長

仙台 光仁 中国四国農政局次長

水田 賢治 日本貿易振興機構(ジェトロ)香川貿易情報センター所長

伊藤 一幸 Setouchi-i-Baseチーフコーディネーター

山下 昭史 三豊市長

小山 和久 経済産業省 四国経済産業局長

長町 康平 香川大学大学院地域マネジメント研究科 准教授

中澤 忠輝 総務省 四国総合通信局長

(2025年度の講師です。)

担当授業科目 四国経済事情(地域活性化と地域資源)

菅 宏司 かがいジャパン株式会社 代表取締役

笠原 良二 公益財団法人 福武財団 事務局長

蟻波 勝 高松丸亀町商店街振興組合 再開発担当

三好 勝則 香川大学 教授

多田 善昭 多田善昭建築設計事務所 主宰

松木 孝和 NPO法人さめぎ茶湯文化潜思 理事長
Kagawa shitsugei gallery 彩 代表 松木泌尿器科院長

大南 信也 学校法人神山学園 神山まるごと高専アドバイザー

大森 研一 合同会社 ウサギマル
映画監督 脚本家 映画制作会社代表

北山 健一郎 NPO法人遍路とおもてなしのネットワーク 事務局次長

山内 康伸 弁理士法人 山内特許事務所 弁理士

畦地 履正 株式会社四万十ドラマ 代表取締役会長

浅野 智英 総社市まちかど郷土館 館長

益田 祐美子 株式会社平成プロジェクト 代表取締役

大美 光代 公益財団法人たかまつ讃岐てらす財団 代表理事
特定非営利活動法人わがこと 代表理事

佐藤 勝典 香川大学大学院地域マネジメント研究科 准教授

(2025年度の講師です。)

担当授業科目 四国経済事情(地域活性化と企業経営)

植田 貴世子 株式会社クラッシー 代表取締役

西牧 世博 四国旅客鉄道株式会社 代表取締役会長

二ノ宮 敬治 メロディ・インターナショナル株式会社 取締役

宮崎 誠司 四国電力株式会社 取締役常務執行役員 総合企画室長

西原 義一 香川県信用保証協会 会長

多田野 宏一 株式会社タダノ 代表取締役会長

高濱 和則 大倉工業株式会社 相談役

真鍋 康正 ことでんグループ 代表

港 義弘 香川県農業協同組合中央会・各連合会 会長
香川県農業協同組合 経営管理委員会会長
株式会社日本農業新聞 代表取締役会長

小幡 義樹 高松空港株式会社 代表取締役社長

植田 裕 株式会社マキタ 代表取締役社長

森 匡史 株式会社百十四銀行 代表取締役頭取

中條 博之 香川証券株式会社 代表取締役社長

宮坂 博 三菱商事株式会社 四国支店 支店長

西中 美和 香川大学大学院地域マネジメント研究科 教授

(2025年度の講師です。)

担当授業科目 ゲーム理論

宍戸 栄徳 香川大学 名誉教授

担当授業科目 ビジネス・アカウンティング(財務会計)

國村 年 國村公認会計士事務所 所長

担当授業科目 費用便益分析

那須 清吾 高知工科大学 地域イノベーション共創機構 特任教授

担当授業科目 経営リスク・マネジメント

辻 紳一 福山市立大学 准教授

担当授業科目 生産マネジメント

北 真収 前 摂南大学経営学部 教授

担当授業科目 環境経営

木全 晃 前 明治大学研究・知財戦略機構客員研究員

(2026年度の講師です。)

担当授業科目 企業倫理

元木 将道 元木・筒井法律事務所 弁護士
香川大学法学部 非常勤教員

公益財団法人かがわ産業支援財団 提供講義

担当授業科目 地域の中小企業と経済活性化【公開講座】

近藤 清志 公益財団法人かがわ産業支援財団 理事長

斎藤 勤 四国繊維販売株式会社 代表取締役会長

三木 佑也 Fintegrity株式会社 代表取締役社長

堀 亮太郎 株式会社コート 取締役 営業部長

中野 裕介 日本ルースト株式会社 代表取締役

八十川 浩一 合同会社Y2BLEND LLC 代表社員

合田 敦 株式会社シニアライフアシスト 専務取締役

伊藤 智也 株式会社伊藤スイミングスクール 代表取締役

早川 茂 一般社団法人希少糖普及協会 代表理事会長

近江 淳 株式会社地方創生 代表取締役社長

川西 弘城 株式会社カワニシ 代表取締役

嶋田 泰典 株式会社Life-do.Plus 執行役員

奥田 拓己 株式会社北四国グラフィア印刷 代表取締役社長

藤田 健一郎 フジタ自動車工業株式会社 代表取締役

阿部 有香 株式会社穴吹トラベル 代表取締役社長

(2026年度の講師です。)

四国ツーリズム創造機構 提供講義

担当授業科目 地域活性化と観光創造

安村 克己 せとうち観光専門職短期大学 学長

平手 康市 日和佐うみがめ博物館カレッタ 館長

高橋 司 四国西予ジオミュージアム 館長

向井 良太郎 トヨタカラー香川株式会社 代表取締役

海老塚 和秀 (一社)四国八十八ヶ所霊場会 会長

佐藤 勝典 香川大学大学院地域マネジメント研究科 准教授

(2025年度の講師です。)



地域マネジメント研究生21期生
専修大学経済学部
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

鈴木 辰朗
Tatsuo Suzuki

Q. 香川大学ビジネススクールで得たものは何ですか？

A. 人生100年時代を生きる上で欠かせない「学び続ける姿勢」です。入学時の私は50歳。社会人経験で身につけた知識の棚卸しが目的の一つでした。ところが、熱心な先生方と多様な仲間のおかげで、学ぶほど知らないことを知る2年間となりました。知識も大切ですが、問いを立て、根拠を集め、結論を磨く。そのプロセスに学問の奥深さを実感することができました。

Q. これまでの学生生活の中で特に印象的だった授業やイベントは？

A. 特に印象に残ったのは2年次のプロジェクト研究です。仕事では経験を重ねるほど、耳の痛い指摘はもらいづらくなるものです。大学院では遠慮なく多角的な指摘をいただけます。先生方の助言で思い込みに気づき、論点が磨かれる場面が何度もありました。時には意見が割れ、議論が白熱することも。合宿で研究以外の様々な話ができ、忘れられない思い出です。

Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。

A. 受験を迷われている方には、ぜひ一歩踏み出すことをお勧めします。私は香川へ単身赴任をきっかけに入学しました。新しい土地で学びの軸が加わったことで、とても充実した生活となりました。仕事と学業の両立には不安もありましたが、時間の使い方や優先順位の付け方にも学びがあるものです。挑戦を受け入れ、後押ししてくれる環境がここにあります。



地域マネジメント研究生21期生
専修大学法学部法律学科

高藤 さつき
Satsuki Takafuji

Q. 香川大学ビジネススクールで得たものは何ですか？

A. チャレンジ精神ややる気です。地マネには様々なバックグラウンドや生き方の方がいます。私はやりたいことや挑戦してみたいことがたくさんあるのですが、躊躇してしまうことも多かったです。しかし、そのような方々と日々過ごす中で自分もまずはやってみようと思えるようになったり、こんな生き方をしたいと目標にできる人に出会ったり、たくさん刺激を頂きました。

Q. これまでの学生生活の中で特に印象的だった授業やイベントは？

A. プロジェクト研究です。1年間で修士論文の完成に向けて文献を読み込み、調査と分析を進めていく作業は大変でもありました。しかしそれぞれ専門の異なる3名の先生方からご指導して頂いたため、これまでと違った視点からも自分の研究を見つめることができ、非常に実りある時間となりました。毎回先生方が熱心にご指導くださったことが印象に残っています。

Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。

A. ビジネススクールという性格を持ちながら、経営系と地域公共系を融合したカリキュラムが構築されている場所はここだけだと思います。それ故に、地マネには本当に様々な方が在籍しています。どんな人であっても必ず新しい出会いや知らなかった世界を知る機会がある場所だと思いますので、ぜひ勇気を出して挑戦してみてください。

地域マネジメント研究生21期生
高松赤十字看護専門学校(看護科)、徳島県立看護専門学校(保健助産学科)
さぬき市役所

神野 さつき
Satsuki Kono

Q. 香川大学ビジネススクールで得たものは何ですか？

A. 幅広い視点で考察できる力です。地マネではこれまでの視点とは全く異なり、経営学的視点から物事を考えることを学びました。先生方の御講義はどれも新しい発見が多く、貴重な授業を通じて、課題に対しても多角的な視点で考察できるようになってきました。地マネに入学しなければ会うことが出来なかった友人との交流も大きいです。

Q. これまでの学生生活の中で特に印象的だった授業やイベントは？

A. プロジェクト研究です。自身の持つ課題に対して学術的研究はこれまで体験がなく、課題を見い出しても学術的分析をして解決を図ることが出来ておりませんでした。プロジェクト研究を通じて、分析考察を行い解決方法を導き出す手法は、今後大きなスキルになると考えます。毎週、2名の担当教諭から受けるアドバイスや個別相談でのアドバイスはとても貴重でした。

Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。

A. 仕事を続けながらの学業となるため、時間的にタイトになり、無駄のないスケジュール管理は重要だと思います。しかし、2年間で今後の人生観が変わるほど貴重な体験を得ることができます。人生の中でこのように密な2年間があっても、私は良いと思います！入学すれば必ず学びがあります。2年後の姿を楽しみに、ぜひ一緒に頑張りましょう。



地域マネジメント研究生21期生
広島経済大学経済学部経済学科
日本化薬株式会社

國枝 崇修
Takanobu Kunieda

Q. 香川大学ビジネススクールで得たものは何ですか？

A. 地マネで得た最大の財産は、人脈と視野です。立場や業界の異なる仲間が、それぞれの問題意識を持って集い、率直に問い合える場でした。多分野の理論を学ぶことで、一つの課題も複数の角度から捉え直せるようになり、仕事の意思決定や組織課題の見立てに直結しています。互いに背中を押し合える関係は、これからの人生においても大きな支えになると感じています。

Q. これまでの学生生活の中で特に印象的だった授業やイベントは？

A. 特に印象深い授業は人的資源管理論、意思決定分析、費用便益分析です。自分の「なぜ」を言語化し、論点を整理する力が鍛えられ、研究テーマにつながりました。多様な受講生の視点に触れ、ケース討議や発表、教員からのフィードバックを重ねる過程が自信になりました。プロジェクト研究では学びを総動員して実務課題に挑み、苦戦しつつも充実した時間でした。

Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。

A. 入学前に問題意識が明確でなくても大丈夫です。日々の「もやもや」を持ち込めば、授業と議論の中で問いが磨かれ、仲間と同じ視点で語り合えます。社会人で時間が取れるか不安でしたが、周囲の理解を得てスキマ時間を積み重ねれば何とかなります。この要覧を読んでいる時点で、あなたは挑戦する価値を感じているはず。ぜひ一歩踏み出してください。後悔はしません。





Voice

地域マネジメント研究科22期生
京都大学文学部(社会学)
NHK高松放送局
岡本 幸江
Yukie Okamoto

Q. 香川大学ビジネススクールへ入学した動機と目的を教えてください。

A. 東京中心にNHKで長年ドラマ制作に携わってききましたが、27年ぶりに地方勤務となりました。局長として地域に根差した放送を目指す上で、自分には蓄積されたノウハウが乏しく、地域やマネジメントを今一度系統立てて学びたいと考えていたところ、本研究科は「地域リーダーを育成する経営・地域公共の融合的カリキュラム」とあり、正に求めていたものだと入学しました。

Q. これまでの学生生活の中で、特に印象的な授業やイベントを教えてください。

A. 「組織行動論」で組織風土やリーダーシップなどを学ぶ中、部下の異動や配置についての質問(悩み)が寄せられたところ、職種も年齢もばらばらな他の受講生から、多様な実践やケースが口々に報告されました。自分の抱える課題には、共に学ぶ仲間も日々向き合っており、ここが生きた学びの場であることを強く実感した瞬間でした。(もちろん先生からも有益な助言が!)

Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。

A. 「自由に発想したい」と願っても、従来の方法や身近なやり方に囚われがちです。ここは経営・地域の多彩な専門家を教授陣に、学生も非常に幅広い専門と経験を持つ社会人が多く、日々のコミュニケーションでも「答えはこれだけではないはず」という気付きを与えてくれます。行政・経営者など学外の講師の多様な視点からも、地域の広がりや奥深さを知ることができます。

仕事と勉学の両立



Voice

地域マネジメント研究科22期生
広島大学大学院 工学研究科 社会環境システム専攻
高松市役所
美濃 吉広
Yoshihiro Mino

現場と学びを行き来する挑戦の日々

日々の業務や生活で地域や組織に向き合う中、もっと良い方法があったのではないかと振り返ることが増えてきました。技術や理論が日々更新される今、知識や経験を整理し、基礎から学び直したいと考え、地域マネジメント研究科の門をたたきました。家族の支えの中で、多様な講義と共に学ぶ仲間から刺激を受け、仕事や地域社会・経済への視点や考え方に、変化を感じています。

■ある1週間のスケジュール

月	火	水	木	金	土	日
6:00 自習	自習	自習	自習	自習	自習	就寝
7:00 食事・家事	食事・家事	食事・家事	食事・家事	食事・家事	食事・家事	食事・家事
8:00 通勤	通勤	通勤	通勤	通勤	通勤	通勤
9:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	自習	自由時間
10:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	自習	自由時間
11:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	自習	自由時間
12:00 食事	食事	食事	食事	食事	食事・家事	食事
13:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務
14:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務
15:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務
16:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務
17:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務
18:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務
19:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務
20:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務
21:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務
22:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務
23:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務
0:00 自習	自習	自習	自習	自習	自習	自習
1:00 就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝
2:00 就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝

仕事と勉学の両立

地域マネジメント研究科22期生
神戸大学 法学部法律学科
株式会社 百十四銀行
福井 悠香
Haruka Fukui

仕事も学びも趣味も、全力で

銀行員として今後のキャリアを考えたとき、経済や香川県のことをもっと知りたいと思い、大学院へ挑戦しました。生活に学業が加わり趣味に使える時間は減りましたが、どれも諦めずメリハリを意識しています。講義はどれも刺激的で、学びの余韻に講義後なかなか寝付けないのが玉に瑕。同期と励まし合いながら、忙しくも充実した毎日を過ごしています。

■ある1週間のスケジュール

月	火	水	木	金	土	日
6:00 食事・朝活	食事・朝活	食事・朝活	食事・朝活	食事・朝活	食事・朝活	食事・朝活
7:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	家事	自由時間
8:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	家事	自由時間
9:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	家事	自由時間
10:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	家事	自由時間
11:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	家事	自由時間
12:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	家事	自由時間
13:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	家事	自由時間
14:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	家事	自由時間
15:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	家事	自由時間
16:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	家事	自由時間
17:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	家事	自由時間
18:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	家事	自由時間
19:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	家事	自由時間
20:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	家事	自由時間
21:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	家事	自由時間
22:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	家事	自由時間
23:00 勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	家事	自由時間
0:00 自習	自習	自習	自習	自習	自習	自習
1:00 就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝
2:00 就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝



地域マネジメント研究科22期生
香川大学農学部 生物資源科学科
農事組合法人東山産業
志渡 聡一郎
Soichiro Shido

Q. 香川大学ビジネススクールへ入学した動機と目的を教えてください。

A. 農業界には経営的視点が不足しているという問題意識があり、経営学の学びを自社・地域・業界に還元したいという想いがあります。実務で得た経験を、根柢を持って意思決定できるようにするために経営学の体系的知識を学ぶことができる場所を探していました。夜間・休日の対面授業であれば、周囲の協力を得ながら経営と学びを両立できると考え入学しました。

Q. これまでの学生生活の中で、特に印象的な授業やイベントを教えてください。

A. 管理会計やファイナンス、組織行動論の授業は、自社の組織力強化を理論的に捉え直す大きな契機となりました。さらに、グループワークや学生シンポジウムでは、実務に直結する多くの刺激を得ることができました。先生方や同期の高い熱量を肌で感じながら学べたこと、また多業種から集まる同期との学びは非常に充実しており、自身のモチベーション向上にもつながっています。

Q. これから入学を考えている方々にアドバイスをお願いします。

A. 当研究科はMBAの知識習得に加え、地域課題の解決や産官学連携など、実務に根差した学びを広く得られる点特徴です。同じ境遇の仲間と学び合い、議論し、交流できることも大きな魅力です。学んだ知識を自社に持ち帰り、実践知として活かすこともできます。学びや交流を通じて、ビジネスの視座を上げたい人は、価値ある時間になると思います。



Voice

主な勤務先（過去7年間）

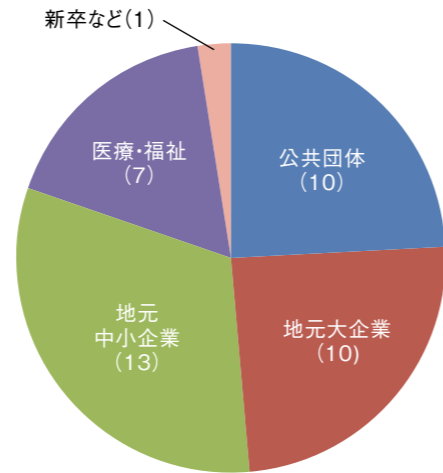
◎ 公的機関

香川県庁・愛媛県庁・高松市役所・丸亀市役所・坂出市役所・さぬき市役所・東かがわ市役所・三豊市役所・観音寺市役所・国土交通省・香川労働局・日本政策金融公庫・りつりん病院・高知大学医学部附属病院・高知県立大学・阪大微生物研究所会・香川大学医学部附属病院・高松赤十字病院・JICA 他

◎ 民間企業

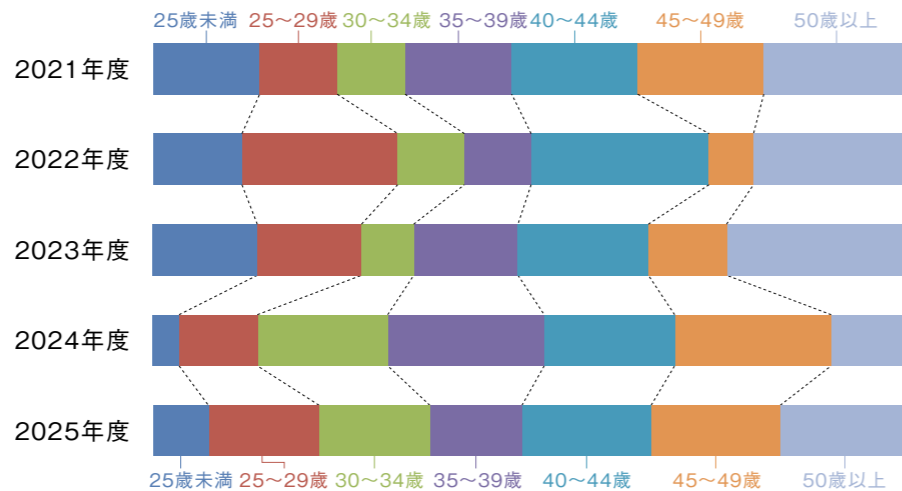
四国旅客鉄道・百十四銀行・四国電力・STNet・阿波銀行・タダノ・西日本放送・瀬戸内海放送・四電エンジニアリング・大倉工業・南海プライウッド・四国化成・セーラー広告・損害保険ジャパン日本興亜・穴吹トラベル・JA岡山東・マキタ・伊予銀行・三菱UFJ銀行・味のちぬや・東京海上日動火災保険・四国水族館開発・JFEスチール・香川県農業協同組合・伊藤忠商事・NTTデータ四国・今治造船 他

入学者所属構成（2025年度）

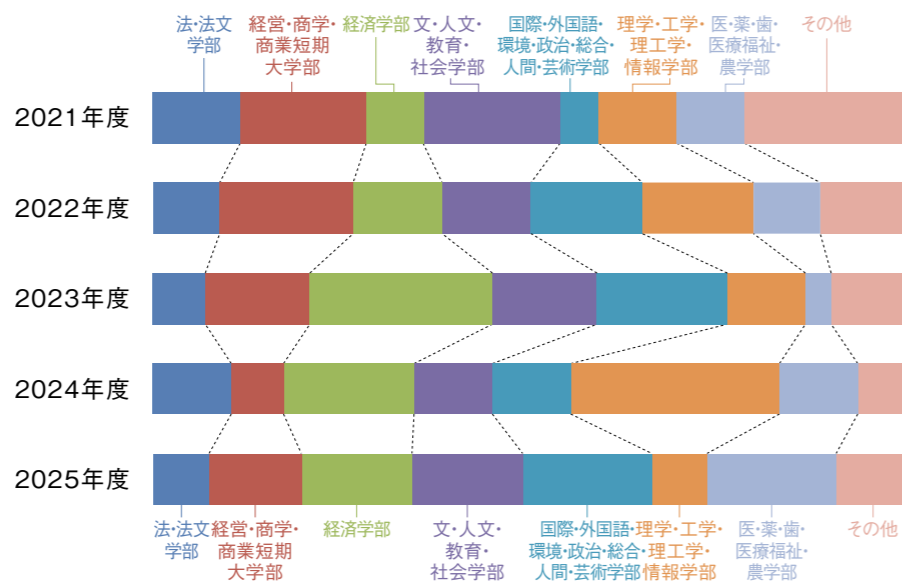


構成比

年齢別構成



出身学部別構成



■ 修学助成の一例

教育訓練給付制度

一定の条件を満たす雇用保険の被保険者、または被保険者であった方が、厚生労働大臣の指定する専門実践教育訓練を受講し修了した場合、本人が教育訓練施設に支払った教育訓練経費の一定の割合額がハローワークから支給される制度です。本研究科は、厚生労働大臣の指定を受けた教育訓練講座ですので、本人が支給要件を満たしていれば、教育訓練経費（入学金と2年間の授業料）の最大80%に相当する額（上限あり）の支給を受けることができます。詳細は、ハローワークが発行している『専門実践教育訓練の「教育訓練給付金」のご案内』のリーフレットを参照してください。

■ 入試の考え方

入学試験においては、アドミッションポリシーと総合的な志望動機や将来の計画を有しているか、カリキュラムを受講するにあたって必要な論理性・表現力を有しているかについて、小論文及び書類・面接により審査します。なお、社会人選抜試験によって受験する者については、小論文を免除する代わりに、社会的経験を踏まえたより多角的な書類・面接審査を実施します。

■ 入学者選抜（一般選抜及び社会人選抜）を、夏期、秋期、冬期の3期に分けて行います。

	検査日時	出願期間
夏期	2026年 7月11日(土)	2026年 6月15日(月)～6月26日(金)
秋期	2026年 10月10日(土)	2026年 9月11日(金)～9月25日(金)
冬期	2027年 2月6日(土)	2027年 1月8日(金)～1月22日(金)

■ 選抜方法の概要は次図に示したとおりです。

